

30年5月7日

軽井沢町議会  
議長 市村 守 様

会派（議員）名  
代表 押金洋仁  
（報告書作成） 寺田和佳子

## 研 修 報 告 書

### 1 視察日程

平成30年4月7日（土）

### 2 研修先及び目的

（1）世界自閉症啓発 day 発達障害シンポジウム

- ① 三鷹市・高槻市・中小企業家同友会の取り組み事例
- ② アート、スポーツ、ミュージックの観点からの関わり
- ③ ビジネス分野での関わり方

### 3 研修参加者

寺田和佳子

### 4. 研修内容

（1）東京都 新霞が関ビル 10:00 から 16:00

シンポジウム1

「安心してください！地域のみなさん」

三鷹市・高槻市・中小企業家同友会全国協議会の活動発表

シンポジウム2

「やりたいんだ！アート・スポーツ・ミュージック」

社会福祉法人 JOY 明日への息吹・特定非営利活動法人トラックス

就労継続支援 B 型作業所アール・ド・ヴィーヴルの発表

シンポジウム3

「知ってほしい！街の中の味方」

特定非営利活動法人そらいろプロジェクト京都

## ◎研修目的

4月2日が自閉症啓発 day という事もあり、合わせて発達障害啓発週間中に行われる、発達障害のシンポジウムに参加し、様々な地域での取り組みの理解と、行政ができる支援の方法を学び当町で生かせる取り組みを探す。さらにアート、スポーツ、ミュージックでの関わり方、ビジネスの視点からの関わり方を考える。

テーマ「知りたい、知らせたい発達障害のこと

～こども、若者、スポーツ、アートの視点から～

## ◎研修内容

### シンポジウム1

#### (1) 三鷹市の取り組み（三鷹市長 清原慶子）

日本初の0歳児保育開始都市である三鷹市は、2006年に自治基本条例を制定し、その中で参加と協働を基本と謳い、ともに支え合う地域社会を生み出す「コミュニティ創生」プロジェクトを打ち立てている。

- ・ 障害者相談
- ・ 三鷹市中央防災公園・元気創造プラザの建設（1F/2F 子育て世代包括支援センター）  
（1階子ども発達支援センター・障がい児保育園 定員 32名）
- ・ 「ウェルカム ベビープロジェクトみたか」と称し、妊婦全員面接（ゆりかご面接）をH28年スタートする。全ての妊婦を対象とした専門職（助産師・保健師など）による面談で、妊娠中の不安解消や産後うつ・虐待防止のために、妊婦の健康状態・子育て支援のニーズ等を把握する。必要な人にはプラン作成をし継続支援を行う。
- ・ 発達障害の理解への取り組み（地域の理解推進のため）  
幼稚園・保育所等の職員を対象に巡回発達相談（各園年3回程度）  
市内の保育士・市民対象の専門講座（年4回）  
市内の保育士対象の連続講座（月1回 1クール6回）  
対象児が在籍する園で、直接子どもを支援し、職員と課題共有を行う保育所等訪問支援（月1回 1クール6回）
- ・ 発達障害の理解への取り組み（家庭内における子ども理解のため）  
1歳6ヶ月から就園までの子どもと保護者を対象とした親子グループ  
（月1回 1クール7回）  
発達障がいテーマにした保護者向け講座（年2回）  
発達に課題のある子どもの先輩ママからの経験談を聞くなど、保護者同士の交流を図る場とするママサロン（年4回）
- ・ コミュニティスクールを基盤とする小・中一貫教育校の設立（7学園）
- ・ 30年度新規事業 発達障害保護者寄り添い支援事業  
発達障害に対する正しい情報を伝えることで不安を解消し早期の支援へとつなげる取り組み。

## (2) 高槻市の取り組み（高槻市長 濱田剛史）

高槻市は他地域同様充実した健診が行われています。その中から発見された気になる子対象の支援教室（パンダ教室・めばえ教室）を作り対応している。

肢体不自由児に対しては療育園を別に設け、対象児に合わせた支援内容を実施。

### ・特別支援教育について専門性のある教員を育成

高槻市の障がい児教育を担う教員の養成を行うため、民間社会福祉法人に指導を委託し、通級指導教室担当教員や養護学級の担任、幼稚園教員などを対象に養成を図る。14年度から育成された専門性のある教員をリーディングチームとして立ち上げ、各学校に派遣し特別支援教育が必要な児童生徒を抱える教員に対して講座や指導助言を行う。

これにより、障がいの程度に応じた教育的対応が可能になり、様々な（部屋の作りに対する工夫、音響に関わる工夫、教材の工夫、指示の出し方の工夫、視覚から訴える工夫など）工夫がされるようになった。

### ・広報誌を利用した発達障害への理解を促す工夫

一般の市民に発達障害を深く理解してもらうための努力を絶やさず、発信し続ける。

## 考察

各市とも素晴らしい内容の取り組みがなされていた。

三鷹市の魅力は以下のところにある。

### ・コミュニティスクールを基盤とする小・中一貫教育校の設立（7学園）

### ・発達障がいテーマにした保護者向け講座（年2回）

発達に課題のある子どもの先輩ママからの経験談を聞くなど、保護者同士の交流を図る場とするままサロン（年4回）

### ・30年度新規事業 発達障害保護者寄り添い支援事業

発達障害に対する正しい情報を伝えることで不安を解消し早期の支援へとつなげる取り組み。

高槻市に関しては、

### ・特別支援教育について専門性のある教員を育成

高槻市の障がい児教育を担う教員の養成を行うため、民間社会福祉法人に指導を委託し、通級指導教室担当教員や養護学級の担任、幼稚園教員などを対象に養成を図る。14年度から育成された専門性のある教員をリーディングチームとして立ち上げ、各学校に派遣し特別支援教育が必要な児童生徒を抱える教員に対して講座や指導助言を行う。

これにより、障がいの程度に応じた教育的対応が可能になり、様々な（部屋の作りに対する工夫、音響に関わる工夫、教材の工夫、指示の出し方の工夫、視覚から訴える工夫など）工夫がされるようになった。

この取り組みが目を見はる。どこの地域でもこの課題は大きくのしかかる。

国は教員養成に特別支援教育をの教員育成に未だ変化が見られない現状では、自治体が特別教育支援の先生方の育成に手を差し伸べない限り問題は解決しないであろう。

## シンポジウム 2

### (1) ミュージック分野での関わり

(社会福祉法人 JOY 明日への息吹 副施設長 岡部 秀輔)

福岡にある社会福祉法人が運営する「JOY 倶楽部ミュージックアンサンブル」は多くのダウン症の方を含む障害者で音楽活動を行なっている。

年50回全国のコンサートホール、ホテル、研修施設、お寺や教会、市民センター、公民館ホール、野外運動場、学校等の施設に出向き演奏する。

理事長は障害者専門の歯科医で、学会でオランダに行った際出会った障害者が生き生きと音楽活動に取り組んでいる姿を見、それを取り巻く市民が誇りを持って彼等を応援し、愛している姿をみたことが始まりである。

活動開始は1993年福岡博多市の倉庫練習で、週2～3回、11名でスタートした。

習い事の延長・仲良しクラブでは限界があるので仕事として音楽活動をしようと活動開始。

個人レッスン・小グループでのレッスン・全体練習をして日々を過ごす。

音楽活動から得られたことは、

- ① 仲間への思いやり
- ② 演奏者としての責任感
- ③ ステージに立ちたいという欲求
- ④ 楽器(物)を大切にしようとする気持ち
- ⑤ 自分で〇〇しようとする責任感
- ⑥ 自分でできた喜び・達成感
- ⑦ 様々な異業種の方々との繋がり
- ⑧ コンサートに欠かさず足を運んでくれるファンの存在
- ⑨ 音楽仲間・関係者との出会い
- ⑩ コンサートでいただくたくさんの方の拍手と達成感

これらが自尊感情を育む糧となる結果として、豊かな生活へとつながる。

### (3) スポーツ分野での関わり

(特定非営利活動法人トラッソス 副理事 FCトラッソス監督 吉澤 昌好)

2017年NPO法人格を取得。

- ① 知的/発達障がい児・者を中心としたサッカースクールやクラブの運営
- ② イベント開催
- ③ 指導者の育成 などを行う団体

トラッソス・サッカースクール/FCトラッソスでは、ダウン症・脳性麻痺・自閉症スペクトラム障害(広汎性発達障害)・学習障害(LD)・注意欠陥・多動性障害(ADHD)・てんかん・ウィリアムズ症候群などの特性のある子ども達が、一緒にサッカーを楽しみながら成長していきます。

ウォーミングアップやトレーニングは、遊びながら行ないます。ただ遊ぶのではなく、

コーディネーション（思考と体の連携等）の要素を含んだメニューになっています。子ども達が楽しみながら体力及び運動能力の維持・向上を図ると共に、神経系への刺激やサッカーの基本技術を習得していきます。

知的障がい児/者・発達障がい児/者と健常児/者との交流大会「COPA-TRA & copa-tra（コパトラ）」、共催イベント「全日本知的障害児・者サッカー競技会 につこにこフェスタ」の開催や、知的障がい児・者/発達障がい児・者の教育やスポーツ指導に携わる方を対象とした学習会「未来を見つめる指導者塾」を実施しています。

NPO トラッソスでは、知的障がい・発達障がいのあるお子さんへのスポーツ指導などに携わっている方々を中心に、指導者の勉強会を開催しています。

知的障害・発達障害のある子ども達の指導者として何が必要か考察し、様々な事例を考察しながら障害のある子どもの指導について体系的に学びます。また、地域スポーツのあり方と可能性、教育機関との共有及び連携について、そしてこれからの発展について意見を交わします。

サッカーの指導者はたくさん存在しますが、知的障害・発達障害のある方々を対象とする指導者は極めて少ないのが現状です。また、トラッソスの活動する会場に来ることが困難な方も多くいます。NPO 法人トラッソスでは様々な地域・団体に指導者（コーチ）を派遣し、笑顔で楽しむサッカーの提供を行っています。

NPO トラッソスでは、様々な地域・団体に指導者（コーチ）が出向き、サッカー教室を提供するコーチ派遣を行っています。

#### **(4) ART 分野での関わり**

**(就労継続支援 B 型作業所アール・ド・ヴィーヴル 中津川浩章)**

作業所に集まる人々は、世の中でいう美的に美しいものを作るために作業をしている訳ではなく、個々から生まれる表現活動を楽しみながら作品を制作している。

専門家は寄り添いながら、指導という一方通行的な関わり方ではなく、製作者と共に味わいながら作品を手助けしている。

日々、言葉ではなく作品に取り組む態度や心の変化を感じ取ることで個々の体調や気分の変化を見届け、サポートしている。

#### **考察**

3分野共に、悩みを抱える家族・本人に寄り添いながら、社会で本人たちが生き生きと活動をするためにはどうしたら良いかを考え、機会や場所を積極的に作っている団体である。各分野では専門家が様々な方法で環境づくりを試みているが、決して教え込むという一方的な指導方法はとっておらず、どの分野でも自ら学びたいと思ったときに、その道が閉ざされないように努力していただいている。

また、スポーツ分野では全国で同じ活動を行えるようなシステムづくり、指導者づくりを行う事で、将来更なる発展を期待する人々を隔てる障がいがない世界に向けての取り組みも素晴らしい。自治体では補いきれない分野を各団体が担うことで、生きやすい社会が形成されることが望ましいと感じる。

### シンポジウム3

#### (特定非営利法人 そらいろプロジェクト京都 赤松隆滋)

「スマイルカット」自閉症や発達障害を持つ子供が散髪できる、本人も保護者も笑顔になるプロジェクト。

発達障害児を持つ母親から「発達障がいのある息子は美容室ではじっとしていられないが、いずれできるようにトレーニングしたい」との問い合わせから始まった。

子供がいつも訪れる児童館などでの散髪が不可能である法令の壁が当たったにも関わらず、「美容師法に基づく衛生上必要な措置等に関する条例」の第2条 理容師法施行令（昭和28年政令第232号）第4条第3号に規定する理容所以外の場所において業を行うことができる場合は、以下のとおりとし、知事の許可があれば行えるとした。

(1) 児童養護施設、養護老人ホームその他これらに類する施設に入所している者に対して理容を行う場合

(2) 演芸等を行う者に対してその演芸等の直前に理容を行う場合

(3) 災害により避難している者に対して理容を行う場合

(4) **その他知事が特に必要と認める場合**

**赤色**部分の内容を以下のように改正して

身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害がある者であって、その障害により美容所において美容を受けることが困難なものに対して、その者の障害に応じた場所で美容を行う場合とした。

この様な活動の中から、口コミで全国に広がり関係する子の保護者からたくさんの依頼を受ける様になる。

聴覚が敏感な子や髪の毛が肌につくのが嫌な子など様々な子供もいることから、散髪には、あらかじめ保護者との打ち合わせや、絵による散髪手順をあらかじめ知らせておくこと、時間的な目標を知らせておくことなどの工夫を行っている。

保護者の理解も必要で、大人の理論や都合で考えず、一回で散髪できるという高いハードルを持たない様、ゆっくりと慣れさせ美容室で座って散髪できたら卒業証書を渡すなど、美容師側も工夫もこらす。

全国美容師がこの取り組みに参画してもらえる様に、ネットワークも確立し発達障害への理解や、心構えも伝えている。

さらに、保護者が子供の散髪ができる様に講座も開いている。

#### (株式会社 WOODY 中里裕次)

アスペルガー症候群・ADHDなどの発達障害児の突出したこだわりや興味に対応したサービスと、更にその能力を伸ばすためのインターネットサービス Branch.

発達障害児は突出したこだわりや興味を示すことが多いが、その子供達の興味は能力とも呼べるレベルまで達し、保護者では対応できないことが多い。

そのような場合に、全国の様々な分野の専門家と交流を持ち、子供達の追求欲求に応えられる環境を作るためのマッチングサイトである。

そこから派生し、インターネットだけでなく都内に「学校に馴染めない」「学校がつまらない」「好きなことだけに集中したい」という集団に馴染めない子供達が通える場所（サロン）作りをしている。

例) 天気予報が好き→記号やアイコンが好き？

チャンネル情報が好き？

映像が好き？

上記のように子供達の「好き」を細かく分析し、保護者に知ってもらうこと。

将来子供達が迎える時代は誰でもできることは仕事にならない可能性もある。それを見据え、自分の「好き」に関してのコミュニティを作れる環境づくりを大人がしていく必要がある。子供達の「好き」をどのように伸ばすのか、育てるのか、そして自信をつけて自ら社会とつながることができる人になってほしい。という思いから取り組んでいる。

### 考察

にじいろプロジェクトは、発達障害児を抱える保護者にはありがたい取り組みである。

「耳のそばで音がするのが嫌だ」「切った毛が肌に着くのが嫌だ」「何をされるかわからないのが嫌だ」など子供達には様々な気になる点があります。それに一つずつ応えてくれる散髪プロジェクト。

その熱意が行政をも変えてしまう事が驚きであった。全国にこのプロジェクトが進んでいく事を祈りつつ、自らも通っている美容室の方に話してみようと思う。

**Branch** の取り組みは、発達障害児特有の一つの分野への驚くべき興味と集中力・探究心を満たしてくれるサイトであること。

全ての子供が同じスピードで理解できる事を目指す学校現場では決して得られない機会であるという点が大変興味を持ったところだ。

発達障害児の興味をさらに伸ばし、能力とする事で将来の就職にも繋げられる事、自ら自分の興味のある分野に関してのコミュニティが作れる事も、子供達の将来への展望にもなると感じられ、生きにくい世の中が少しでも変わる事を願いたい。

### 全体を通して

行政のできることには限界があると感じる。しかしながら、行政は発達障害児が生きづらい環境改善への取り組みはできる。発達障害児と一緒に生きること、学ぶことが何気なくできる社会へと住民を導く役割を担ってほしい。それを補間するように民間の動きが活発になることが望ましい。そのような民間活動の情報提供、活動促進につながる団体との交流も行政の役割ではないだろうか。